

第5回原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会 概要

日 時	平成30年6月29日（金）19:00 ～ 20:35
場 所	原野谷中学校図書室
出 席	委 員 22人 事務局 教育長、教育部長、企画政策課長、学務課長、学校教育課長 企画政策課行革・公共施設マネジメント推進室長 学校教育課指導主事、教育政策室長、教育政策室係長 教育政策室指導主事、教育政策室主任
内 容	
<p>1 開 会</p> <p>2 教育部長あいさつ</p> <p>3 委員長あいさつ</p> <p>4 報告事項</p> <p>(1) 第4回地域検討委員会について</p> <p>(2) 原野谷学園保護者説明会について ※事務局より説明</p> <p>5 協議事項</p> <p>(1) 原野谷学園における学校施設の方向性について</p> <p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議に入る前に2点確認をしておきたい。 <ol style="list-style-type: none"> 1点目は、財政的な面の確認。保護者説明会で保護者から施設のコスト面や市の財政面について明らかにして欲しいという声も出ている。 2点目は、和田岡地区を小中一貫教育の構想に含めていくべきかどうか、教育委員会の考えを聞かせていただきたい。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛川市の公共施設マネジメントについて説明 <ol style="list-style-type: none"> ①市内では、建築から30年以上が経過した老朽化の進行した設備が増えている。 ②現状の規模で維持更新をするには多額の経費が必要。 ③今後、高齢化が進行することにより扶助費が増加し、公共施設の維持・更新に充てる費用は削減する必要がある。 ④学校教育施設は市内の公共施設の4割超を占める（延床面積比）。 ⑤施設の統廃合や機能の集約、複合化を図り総保有量を圧縮する。 ⑥長寿命化を図るための予防保全に努める。 ⑦学校・教育施設においては、計画的な改修、修繕、改築などによる施設の長寿命化を図るとともに、児童・生徒数の変化を踏まえた適正規模、適正配置について検討を進める。 ・和田岡地区を新たな学園の枠組みに含めるかについて <ol style="list-style-type: none"> ①一体校にする目的の1つは、クラス替えができるくらい的人数の中で、子ども達の社会性を育むことである。 ②現状の原田、原谷地区の子どもの数を見ると、将来的には1つになっても単学級になる学年が出ることが予想される。 ③安定的に複数学級を維持するためには、学園の枠を越えた一体化を検討する必要があると思われる。 ④市の公共施設マネジメントの考え方、将来的な小中学校の児童・生徒数等を考える 	

と、掛川市全体での学区の再編を考えていかななくてはならない。

⑤この検討委員会で和田岡地区も含めた一体校の建設を望むという方向性が打ち出されるのであれば、和田岡地区にも一体化に向けた話しをしていく。

【委員】

・先日、原野谷学園の子ども育成支援協議会の総会が終了した。今年度の事業が本格的に始まった。

その後に開催された地域未来検討委員会では、新たな学園について多くの意見が出た。地域全体がこの問題についてどれだけ関心を持てるかが重要であると考えている。

参加者の数が地域の関心度のバロメーター。保護者説明会では、参加された皆さんは参加してよかったと言ってくれたが、参加者数は少なかった。

第2回目の地域意見交換会が8月に行われるとのことなので、ここに保護者や地域住民の皆さんがどれだけ出席してもらえるか注目をしている。

【委員長】

・地区への情報伝達はどのような形で行われているか。

【委員】

・学園だよりもが地区へ全戸回覧されている。

【委員】

・和田岡地区を構想に含めるのであれば、この委員会の中に和田岡地区の人を入れて検討しなくてはいけないのではないか。

【委員長】

・既に検討委員会の中でもこの意見は何度か出ている。この検討委員会の中で意見を出すことは自由である。報告書の中に和田岡地区を含めた方がよいということが載るのであれば、報告書提出後の会議に和田岡地区の方にも入っていただくということは考えられる。市の学区再編の構想との関係もあるので市側との調整が必要となる。委員会の中では要望の1つとして出すことはよいと思う。

【委員】

・この話しは原谷小の保護者説明会でも出ていた。あんりには和田岡地区の子も通っている。幼稚園で一緒に学んできた子が小学校も一緒に通えた方がよいと思う。

【委員】

・あんりに通っている和田岡の子はどのくらいいるのか。

【委員】

・地区外から通っている子は桜木の数名を除けば、ほとんど和田岡の子である。

【委員】

・幼稚園の段階では、和田岡地区も一緒であることが現状となっている。職員の皆さんも普通になっている。保護者の意見はまた違うのではないか。今、和田岡地区も加えるということになると構想自体が2年くらい後戻りしてしまうのではないかと思う。検討するのであれば、最初から入ってもらった方がよいのではないか。構想がまとまってから学校の規模の問題や予算の問題等を再度検討しなくてはいけなくなるのではないか。

【委員長】

・この委員会として原田、原谷地区としての方向性をまず固めて、その方向に和田岡地区も賛同するのであればよいのかもしれない。いずれにしてもこのことは重要なポイントになるので、慎重にすすめていくことになると思う。

【委員長】

・委員の皆さんには、せつかく意見を固めて、いろいろな要望を出したとしても、財政的に叶えることができない、ということになったら無駄骨になってしまうのではないかという不安をお持ちかもしれない。この検討委員会での検討もここまで来ているし、

研究指定を行った上で、検討を行っているのであるから、この話がダメになってしまうことはないと思うが、その辺りはどうか。

【事務局】

・今、原野谷学園と城東学園の2学園で小中一貫教育の研究指定を行っている。大前提となっているのは、子ども達の未来を考えた時にどういった教育が必要なのか、そこをきちんと踏まえて検討していく。新たな学園というのは今ある学園だけではなく、他も含めるという視点もある。学校側では小中一貫教育ということで、教育の内容について9年間を見据えた取組をどう行っていくのか、どういうカリキュラムが望ましいか、いろいろなことを考えて研究している。

・一方で、先ほど財政の話しもあったが、今後、市内の32校の小中学校をずっと維持していくというのは正直不可能である。どこかで再編を考えていかななくてはいけない。この検討は、統廃合の検討ではなく、子ども達を視点とした研究・協議であり、その時に望ましいのは、一体校とか分離校とか話し合いをしていただいているが、それをメインに考えていただきたい。和田岡地区については、入った方が将来的にはよいのではないか。財政的な視点で言うと、校舎の建て替えに何十億もかかることを考えると、和田岡小ももしかしたら建て直しが今後できないかもしれない、もしかしたら他と一緒にならなくてはいけないという可能性もある。

学校再編については以前から検討してきたが、今がチャンスの時期ということで、再編に向けてスタートを切ったところ。この研究・協議とは別の問題で、その中でももしかしたらいろいろな事情でこの学区が他の学区と一緒にっていくということも考えられる。どうなっていくかは、現時点ではまだ分からない。財政的なことも踏まえた上での再編の計画を立てていくので、今現在では何とも言えない。

統廃合というと小さな学校のことと思われるが、再編は大きな学校を含めた小中学校すべての学校が関係してくる。通学区、学区が変わり、学園の組織、範囲も変わってくるので大きな問題になってくる。そういう流れの中でこの学園、隣の学園がどのように変わっていくかということになる。一方でそういう流れがあって、こちらで検討していく。小中一貫教育の検討委員会の結果とは異なった流れが出てくるかもしれない、今ここではどうなるか分からないが、そういうことがあるということを知っておいていただきたい。

【委員】

・校舎の建設にかかる費用のうち国、県の負担割合はどのくらいか。

【事務局】

- ・学級数に応じた国の基準の必要面積に満たない部分、不足分については国は費用の1/2を負担する。
- ・老朽化等による改築については、国からの交付金で1/3が補助される。
- ・その他地方交付税等で戻ってくる部分もあるが、財政部局で細かく計算してみないと正確な金額は分からない。

【委員長】

・検討委員会として一体型を望むのか、分離型を望むのか、その辺はどうか。

【委員】

・小中の連携教育を進めていく中で、先生が各学校を行ったり来たりするのは難しい。一体校にして体制を整えるのがよいのではないかと思う。

【委員】

・地区回覧や学校からもお知らせが配布されて、皆さん分かってきているが、どんな意見を言ったらよいのか、どのように伝えたらよいのか分からない。もどかしい気持ちはあるが、会議には出てこられない、という方がたくさんいらっしゃる。たくさんの方がいる中で、なかなか自分の意見を伝えることは難しい。何となく賛成とか反対と

いう感じなので、話しが煮詰まっていけない。やはり周知をしないとイケない。どこかで線引きをしないとイケない時が来る。その辺をどういう動きでいくのか。8月の地域意見交換会では皆さんに出てきてもらい、どんな意見でも聞きますという姿勢で私たちが臨めば、参加していただいた皆さんに意見を言ってもらい、すっきりして帰ってもらえるのではないかな。そこまで行き着くように何か行動を起こしていかなくてはイケないのではないかな。

【委員】

- ・昨日、臨時の区長会を開いた。メインの議題は9月に開催される地区集会のテーマのことだったが、原野谷学園の一貫校のことをテーマの1つとすることにした。地区集会の前に、市から地区への説明会を開いて欲しいという意見が出た。どういう形で、どういう規模でやるのが一番効果があるか。小さい区の中では小学校に通う子どもが1人しかいない区もあり、関心度が低い。そういう区に対してはどのように掘り起こしを行い、意見交換会に出席してもらったらよいか。これから夏祭り等もあっていろいろなコミュニケーションも取れると思うので、そこでこのことを周知していかないとイケないと思っている。

【委員長】

- ・一体型にしても分離型にしてもそれぞれメリット、デメリットがある。どちらが本当によいのか判断は難しい。基本的には、これまでの検討を踏まえると、一体型を推す意見が強かった。しかも具体的に図書館をどうするか、地域コミュニティなどの施設の要望も出ているから、その方向が主流であると考えている。施設分離型の良さもいろいろ出されている。一体型はこの地区にはない学校形態であるので、不安を感じたり、周知が不足している、見通し、具体的なイメージが持てない、というようなことから来る心配がかなり含まれている。やむを得ないところではあるが、こうした不安、課題は解決して住民の皆さんに理解いただくことは大事なことである。分離型の方がよいという意見があればお願いしたいが、いかがか。

【委員】

- ・一体型というものの経験がないので、正直分からない。他市での現状を教えてもらえれば、生かせるのではないかなと思う。あわせて学校周辺のまちづくりについても実際に行った街の例があれば、周知活動を行う時にも押しやすいのではないかなと思う。資料を集めてもらうことは可能か。

【委員長】

- ・可能である。これまでも事例としてはいくつかこの検討委員会でも出ている。規模があまり大きくない学校、それぞれの校舎の老朽化が進んでいる同士の一体化の検討をした場合に、それぞれの校舎を改修してその状況を残していくということは皆無に近い。教育効果としても一体型の方が効果が高いということが立証されている。2校分の費用をかけるよりは、その分を一体型にしてより良くすることに費用を掛けるという方向が多い。

【事務局】

- ・第1回目の資料の中に全国の一貫教育を行ってきた学校の統計を出している。その中に、一貫教育を進めてきた学校の特徴としては、交流が深まった、学習意欲が上がった、というような効果が出ている。課題としては、リーダー性の育成の点や、カリキュラムの作成などの点が上げられている。ほとんどの学校では教育の質が上がっている。静浦小中一貫校においても、生徒指導面でも、中学生が小学生から見られていることを意識して生活態度がしっかりしてきた、学習面についても成果が上がっているとい

うことだった。小中一貫教育を進める上では、一体型の方が教育面では効果が出ているということだった。

- ・伊豆市の義務教育学校については、先に学校を開校し、現在まちづくりについて地域の要望を聞いている、ということだった。

【委員長】

- ・今後、住民への説明をするための詳細な資料が必要になる。

【委員】

- ・規模も、子どもの年齢も違うので、参考になるか分からないが、あんりが一緒になる前は、幼稚園と保育園がまったく別の場所にあったものが1つの建物に一緒になった。幼保一元化ということで隣のクラスは幼稚園、その隣のクラスは保育園、同じ5歳児が保育園、幼稚園が同じ建物の中に別々にあった。施設分離型に近いのではないか。運動場では一緒に遊んでいたが、一緒に遊んでいるように見えて、子ども達は別々の集団で遊んでいた。

3年前に認定こども園になって一緒にの部屋に長い時間保育を要する子どもと短い時間の子どもがすごすことによって、最初の年は長い時間の子と短い時間の子が別の集団になりがちだったが、3年たって誰が長い時間の子か、短い時間の子か分からない。帰る時間が違うだけ。一体化になって困るのは大人の方で、先生が保育とは、幼児教育とはということに勉強しなくてはいけない。大人側が戸惑うことはたくさんあるが、子ども達はすぐに慣れるので、一体型の心配はないのではないかと自分たちがやってみて感じている。

【委員長】

- ・反対意見がなければ、この委員会としては一体型ということを進めていきたいと思うがいかがか。

(一同了承)

【委員長】

- ・それでは一体型ということで一致を見たということにさせていただく。
- ・今日もいくつか出されているが、①周知の課題、②大人や保護者の意識の課題、③学校への協力体制の確立、等の課題があるので、この検討委員会でも検討するが、今後の引き続きの課題となる。
- ・一体型とする場合に、地域としてどのような学校を望むのか、一体型のメリットを生かした施設、施設の多機能化・複合化などについて意見をいただきたい。

【委員】

- ・以前、原田で接客業をしている方と話しをしたことがあり、原田地区はお年寄りが集まって話しをする場が少ない。そういう施設を学校の中に入れて欲しいということ言われた。

施設を作っても車がないとなかなか来られない。この地域だけを巡回するバスのようなものがあれば、施設までのアクセスがよくなって出やすくなるのではないか。

【委員】

- ・最近の校舎の傾向がどうなのかを教えて欲しい。
- ・私たちが検討しやすいのは、施設に付帯する設備、地域交流施設等について話しをしていただくと考えやすい。学校の施設そのものについては教育委員会の考えを尊重してよいのではないかと思います。

【事務局】

- ・市内の最近の学校施設としては中央小学校の校舎となる。特徴としては校内に無線LANが完備されていて、黒板はホワイトボードになっていて、プロジェクターが付いている。教員がタブレットを操作するとホワイトボードに投影されるような施設になっている。プロジェクター、黒板が可動式となっている。今後、情報化社会がさらに進展して、技術革新も起こる中で、子ども達が社会に出たときに対応できるように、

そう言った環境が必要になってくる。

図書館とパソコン室が近くにあって、情報活用のスペースとして1つにして使うこともできる。多目的に使える廊下、多目的スペースがふんだんにとられている。学童保育も校舎内の施設になっている。

【委員】

- ・ 一体校という方向で行くということによいと思う。財政的には厳しいという話もあったが、しかし子どもにとっては良いものであれという話もあった。30年後くらいを見据えてこの一体校を建設すべきだと思う。教科学習を高める、豊かな心を作ると言ったいろんな意味での内容を考えたものにしていくのは当然のことである。子ども達のためにどういう施設がよいのかということは教育関係に携わった人とかでないといけないのではないか、地域の要望は出せるが、教育委員会から資料を出してもらって、説明を受けながらこういうのがよいというような形でやらないと中味の充実にはならないのではないか。

掛川で最初の取り組むものだから、ぜひお金をかけてやってもらいたい。子ども達にとって魅力的なものであるとともに、地域にとっても、掛川市にとっても、あそこはいいぞというところを出せるようなものを、掛川一、静岡県一と目立つぐらいに、財政も教育委員会も考えていくし、この検討委員会でも考えていくことが、結局は子どもたちのためになるのではないかと思う。

【委員長】

- ・ 本日の要点をまとめる。
 - ① 財政的には厳しい中ではあるが補助金等を活用して、一体校を建設する可能性は十分見込めること。
 - ② 和田岡地区については、ぜひ加えたいという意見はあったが、この検討委員会としては原野谷地区の方向性をまずは固めていく。
 - ③ 9年間を見据えた子ども達の未来を考えると、施設一体型の新しい学校づくりを目指す。
 - ④ 保護者や地区住民への周知活動をもう少し工夫する必要がある。
 - ⑤ いくつかの課題があるので、それを解決しながら進めていくことが重要である。
 - ⑥ 施設としてはICTやオープンスペース、アクティブラーニングや新しい学習指導要領の趣旨が実現できるような、今後30年を見通した将来につながる施設、掛川一、静岡県一になり得るものであって欲しい。

以上で協議を終了した。

6 連絡事項について

(1) 今後の予定について

地域検討委員会・地域意見交換会

- ・ 第2回地域意見交換会 平成30年8月24日（金）19:00～
- ・ 第6回地域検討委員会 平成30年9月20日（木）19:00～

7 閉 会